



# 学びを行動につなげる 「プロセス重視のプログラム」と 「伴走支援」の重要性

青森県青森市（一社）男女共同参画地域みらいねっと  
代表理事 小山内 世喜子



## 1 女性防災リーダー育成が 必要とされる背景

当法人では「防災・減災の分野に女性リーダーの参画を進める」ことを目標に掲げ、女性防災リーダーの育成に力を入れてきました。この取り組みの背景には、東日本大震災や能登半島地震で明らかになったジェンダー視点の欠如があります。平時から存在する男女格差や固定的性別役割分担意識は、災害時のリスクを拡大させ、避難所運営においても女性や多様な人々のニーズが十分に反映されない状況を生み出してきました。地域防災の中心を担う町内会役員の高齢化や男性中心の体制も課題であり、女性のリーダーシップが求められているにもかかわらず、責任ある立場に女性がほとんどいない現状が続いていました。

防災に関心を持つ女性は増えているものの、「資格を取っても何をしてよいかわからない」「町内会で意見を言いがたい」といった声が多く、地域に根強いジェンダー意識や自己肯定感の低さが、一步を踏み出す妨げとなっていました。こうした状況を踏まえ、女性が主体的に地域防災に関わるための「女性防災リーダー育成プログラム事業」を開始しました。

## 2 プログラムの特徴： プロセス重視と伴走支援

本プログラムは2023年度から3年間、県内3か所で実施し、8日間16講座を修了した87人の女性防災リーダーを輩出しました。参加者は女性消防団、防災士資格取得者、福祉関係者、PTA役員など幅広く、多様な背景を持つ女性が学び合う場となりました。

ました。

本プログラムの特徴は三点あります。

第一に、「スキルアップ」と「マインドアップ」を両輪とし、「学び」「気づき」「考える」「実践」「ふりかえり」のプロセスを重視した点です。特にジェンダー視点を取り入れた避難所運営訓練では、女性が意思決定に参画し、多様な人々に配慮した避難所づくりを体感することができました。被災地視察では、震災時に地域のリーダーとして活動した女性の講話を聴き、自分事として防災を捉えるきっかけにもなりました。研修の最後にはアクションプランを作成し、自治体防災担当者の前で発表することで、学びを具体的行動につなげるとともに、地域での活動の後押しにもつながりました。

第二に、仲間づくりを重視した点です。研修中のワークショップやランチ交流会を通じて参加者同士のつながりを育みました。研修後も実践の場の提供や交流会、相談支援、インターンシップ、共催事業、被災地支援同行など、伴走型のフォローアップ



ジャパン女性防災リーダーサミット・集合写真



研修「マイタイムライン」グループ発表



研修「話し合う力」ワークショップ



ジェンダー視点を取り入れた  
避難所運営訓練 避難所開設  
・受付



ジェンダー視点を取り入れた  
避難所運営訓練 総務情報班  
・情報掲示板の設置



アクションプランの発表

ブを継続し、学びを行動につなげる環境づくりに力を入れています。また、修了生ネットワーク「GECM-net」を設立し、SNSでの交流や相互支援も活発で、ネットワークが活動の広がりを支えています。

第三に、女性が地域で活躍するための社会的理解と信用の醸成に取り組んだ点です。テレビ番組「迫る災害 女性たちの挑戦」を制作・放送し、新聞・テレビ報道も積極的に活用することで、女性防災リーダーの存在を広く社会に伝えてきました。報道によって修了生の信用度が高まり、地域での活動が受け入れられやすくなる効果も見られました。

### 3 成果と広がり： 地域を変える女性の力

こうした研修設計は、参加者の主体性を引き出し、地域の実情に即した実践的な内容であると評価されています。避難生活や日常に潜むジェンダー課題に気づき、改善策を考え、実践によって課題を具体化する

ことで「自分のまちを変えたい」という想いが芽生えるプロセスは、本事業の大きな成果です。研修は「学ぶ場」であると同時に「集まる場」「語り合う場」「つながる場」として機能し、修了生同士のネットワークが地域での一歩を後押ししています。

現在では、修了生の多くが地域で防災活動を始めています。近隣の修了生同士で防災・減災の団体を立ち上げた人、既存団体でジェンダー視点を取り入れた活動を進める人、住民と新たな組織を設立した人、町内会役員として組織変革に取り組む人、職場や学校で防災教育を始めた人など、取り組みは多岐にわたります。

女性の活躍は地域を変える力を持っています。多様な視点を持つ人材が地域に根付き、互いに支え合いながら活動を広げていく循環は、「誰一人取り残さない地域防災」の実現につながります。